



そよかぜ

佐久市社会教育委員だより 第6号
2021.10 発行

**「そよかぜ」…このタイトルのように佐久市に 社会教育の風を吹かせ、
生涯にわたって学び続け、互いに支え合い、高め合う市民を目指していきましょう！**

令和3年7月から2年間の任期で佐久市社会教育委員を委嘱されました。

多種多様なメンバーを、どうぞよろしくお願いいたします。

各委員からの一言を「そよかぜ第6号」「そよかぜ第7号」の2回にわたって掲載します。

そよかぜ第6号 掲載		そよかぜ第7号 掲載	
氏名	所属団体等	氏名	所属団体等
★中澤 功	佐久市人権同和教育推進員	畠山 文雄	佐久市スポーツ推進委員会副会長
井澤 昭	平根小学校校長	原 英正	佐久市少年センター補導委員協議会副会長
田宮 貴子	学識経験者	和光 智恵子	佐久市文化推進企画委員会委員
小野 忠朝	佐久市地域公民館連絡協議会会長	小山 里美	学識経験者
依田 とく代	学識経験者	奥村 繁子	パートナーシップ佐久会員
佐々木 愛歌	佐久市市民活動サポートセンター	★柳澤 優子	学識経験者

★委員長 ★副委員長

中澤 功 委員長

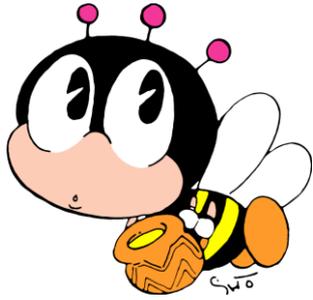
佐久市岩村田 天然記念物「ヒカリゴケ」の近くに住んでいる中澤 功です。4年前から社会教育委員をしています。

先日、ヒカリゴケ付近の花の水くれ当番を募集したところ、10人7軒の人が申し出てくれました。このような雰囲気の中で生活すると自分が元気になります。このように地域に困ったことがあると、みんなで集まって話し合い「ああでもない」「こうでもない」と力を合わせて行動する、そしてまた話し合う。すると地域が元気になります。みんなで力を合わせて困難を乗り越えていけます。この原動力には社会教育の占める割合が高いような気がします。

変化の激しい社会、特にAIの世界の発達には驚くばかりです。

今、人と人とのコミュニケーションを考えると、このような社会教育活動の大切さを実感します。地域が手を取り合って連携を深め、お互いに学び合う雰囲気を醸し出すことが大切です。佐久市がこのような社会になっていくことを願って活動したいと思います。





生涯学習マスコット
「マナビィ」

井澤 昭 委員

新たに委員となりました井澤 昭です。出身は上伊那郡箕輪町ですが、佐久に25年ほど暮らしています。

平根小学校には本年度の4月からお世話になっています。30年以上、長野県各地の公立小中学校の教員として児童生徒の教育に携わってきましたので、学校内での子どもたちの様子や、学校という視点から見た地域とのつながり等については、自分の経験をもとにして多少お話できることもあるかと思えます。しかし、ずっと学校現場にいたため、学校を外から見る機会がありませんでした。今回、佐久市の社会教育委員をさせていただくことになりましたので、地域社会から見た学校・地域社会と共に発展していく学校・生涯学習から見た学校・等々の視点で、改めて社会の中の学校の存在意味を捉えなおしたいと思っています。かつてないほど未来の予測が困難な時代が訪れると言われていています。そのような中で、学校と地域がどう連携し、子どもたちがよりよい人生を切り開いていけるのか考えたいと思います。

田宮 貴子 委員

今年度より委員に委嘱されました田宮貴子と申します。よろしくお願ひします。

私は不登校の子どもたちと関わって10余年、昨年度からは中間教室「チャレンジ教室」で適応指導員をしています。また、40数年に渡りフラワーデザインを広めてきた母の跡を継ぎ、その一部である公民館のグループ活動で月2回講師をしています。その経験の中でお花に興味のあるお子さんとの関わりがありました。家から出られない状態から、なんと、お母様と一緒に公民館活動に参加できたのです。緊張感でいっぱいだったものの、お母さん・おばあちゃん世代の方たちに温かく声をかけてもらい、お花に触れていくうちに表情も和らぎ夢中になっていくのがわかりました。完成した作品を嬉しそうに眺め、仲間から褒められ、満面の笑みになったのがとても印象的でした。この体験はその後、学校復帰にも繋がりました。自ら学びたいことを仲間と共に学び合い生きがいを育む生涯学習、これこそが社会教育の大きな役割のひとつと実感した出来事でした。こういう輪をさらに広めるよう活動してまいりたいと思います。



この度、初めて委員に委嘱されました小野です。社会教育委員とは、具体的に何をどのように進めていくのか、分からないことが多々あるのが現状です。皆さま方からの助言をいただきながら、私なりに少しずつ進めていきたいと思っています。

私は地域公民館連絡協議会という組織の中で、何か出来ないかを考え、各地域の公民館活動の活性化に注力していきたいと思っています。昨年来、新型コロナウイルス感染症の影響により、各地域公民館で予定されていた行事のほとんどが延期や、中止になっています。山間部では少子高齢化による人口減少で、過疎化が進んでいるのが現状です。各地域公民館活動の一つとして高齢者が集まり、様々な習い事をする会があり、数年前オブザーバーとして参加させていただきました。参加されている方は全員女性で、男性は一人もいませんでした。

コロナ禍ではありますが、高齢者同士が横との繋がりを強くするため、男性、女性問わず気軽に参加できるような仕組みづくりの一助を担っていかれたらと思っています。



7月 第2回社会教育委員会議



梅雨明けと同時に猛暑の夏がやってきました。連日の暑さに悲鳴を上げながらも、東京オリンピックが幕を開け、少しソワソワしてウキウキしてきた頃に、佐久市でも新型コロナウイルス警戒レベルの引き上げがありました。当然のことながら、地域恒例のイベントやお祭りが中止になり、セミの鳴き声だけが賑やかな夏になってしまいました。長引くコロナ禍の生活で、コミュニティーの場がどんどん変化してきています。いつも同じ人たちとしかコミュニケーションをとらなくなっているせいか、次第に言葉が貧弱になってきたようにも感じます。社会教育の原点である「人と人とをつなぐ」、そのための方法が、これからは既存の形に捉われず様々な形を模索する時代になりました。そんな状況だからこそ、皆さんと一緒に知恵を出し合っていければと思っています。

佐久の豊かな自然に囲まれ育ちました。大正生まれの祖父母を筆頭に、令和世代の娘まで、4世代で賑やかに暮らしています。佐久市市民活動サポートセンター(愛称さくさぽ)に勤務しておりますが、前職の旅行業から続くご縁に支えられ、夢は「赤ちゃんからご長寿世代まで集うさくさぽ!」。コロナ禍の中、感染症対策をしながら活動している市民活動をいくつかご紹介します。早く元通りに活動が再開できて、皆さんに笑顔が戻ることを願っています。

◎高齢者の居場所づくり「えんがわぼっこ」

仲間が歩いて来られる場所で居場所づくり。



コロナ禍では、家を一軒一軒訪ね、「みんなの寄せ書きお便り」を配り、繋がりを再確認していました。

◎困窮世帯へ物資提供「反貧困ネットワーク佐久」

空き家を借り月2回、失業された方への生活支援をしています。コロナ禍で相談者が増えたため、感染症対策をしながら開設しています。

◎発達障がいの子を持つ保護者のコミュニティ「SAKU おむすびの会」

オンライン講座の開催に初挑戦しました。予想以上に好評で、今まで参加できなかった子育て世代の参加もあったそうです。



***オンライン講座に取り組む団体などにサポーターを紹介しています。シニア世代の挑戦も!**



◎高校生も参加! 中込商店街で「リユース学用品」

ランドセルや制服の「おさがり」で、購入できない家庭を支援しています。学生が授業で学ぶSDGsの概念を実行しています。

***高校の探求授業の題材として、SDGsに関連する市民活動を高校に紹介しています。**

■ 編集後記

何をするにも「コロナ禍」「感染拡大防止」「緊急事態宣言」などの言葉が頭から離れない昨今、市の社会教育関連の事業も、計画しては中止せざるを得ないという繰り返いで、なんとも切ない限りです。かといって最初からあきらめてしまうのは?? 今は「何ができるのか」「どうすれば可能か」を模索して、はたまた「どうしてもできないのは何か」を見極めて、アフターコロナの時代を目指して社会教育を進めていく時なのではないでしょうか。

社会教育委員は様々な分野から集まっています。ぜひ市民の皆さまの声を社会教育委員までお寄せください。

【発行】佐久市社会教育委員

〒385-8501 佐久市中込3056 佐久市役所南棟3階 佐久市教育委員会 社会教育部 生涯学習課

TEL 0267-62-0671 FAX 0267-64-6132 e-mail syogaigakusyu@city.saku.nagano.jp